

災害時の避難所等における新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルス感染症がまん延する状況において、災害が発生し避難所等を開設する場合には、人が多く集まることで、感染が拡大するリスクがあります。そのため、感染症対策に万全を期すことが重要となっています。

東大和市においても、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、十分な換気やスペースの確保等、少しでも感染リスクが軽減されるよう実施して開設しますが、自助としての感染防止対策をできるだけお願いいたします。

新型コロナウイルスが収束する前に地震、風水害が起きたらどうなるのか、**平時の事前準備及び災害時の避難方法について、各家庭で考えておきましょう。**

今のうちに、自宅が安全かどうかを確認しましょう。

浸水・土砂災害ハザードマップ（令和2年4月に戸別配布）などで、**自分の家がどこにあるのか確認し、浸水や土砂災害のおそれがあるかどうか確認しましょう。**

様々な避難行動を検討しましょう。

避難とは「難」を「避」けること。安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません。**自宅の災害リスクによっては、自宅での安全確保も可能なため、感染のリスクを負ってまで避難所に行く必要はありません。**安全な親戚や知人宅に避難することも検討しましょう。

【風水害に備えて】

避難所に行く必要があるかどうか、内閣府リーフレット「**知っておくべき5つのポイント**」「**避難行動判定フロー**」によって確認しましょう。

【地震に備えて】

避難生活が長期化することが予想され、環境変化による体調不良を起こす方もいますので、**自宅で居住が継続可能な場合は「在宅避難」をしましょう。**

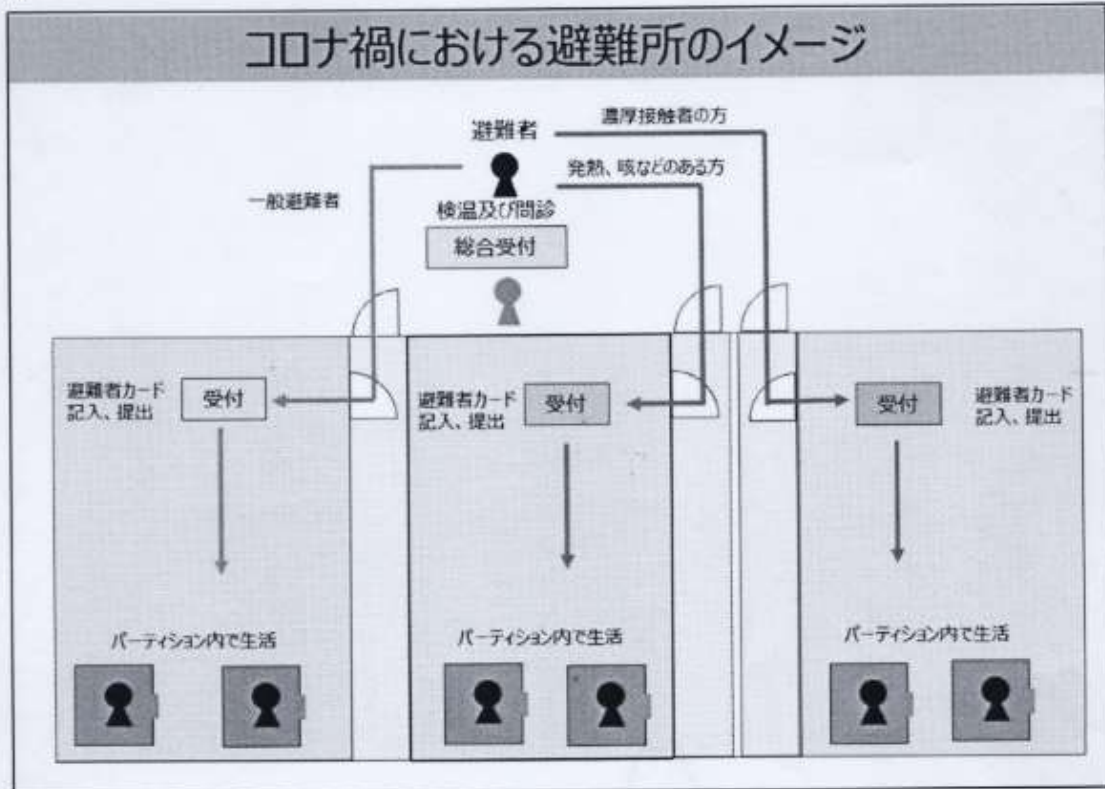
そのため日頃から水や食料などの必要な物を備蓄（最低3日間。推奨7日間）しておくことが重要です。また、在宅避難をする場合は、木造住宅やブロック塀などの安全確認を行ってください。

避難所に持っていくもの

避難される際は、避難所内での接触機会を減らすため、食料や水などの非常用備蓄品に加えて、**マスク、体温計、アルコール消毒液（ウェットティッシュ等）、スリッパ**を持参してください。※身分証明書の持参もお願いします。

コロナ禍における避難所は以前と変わります

- 避難者同士のソーシャルディスタンスを確保するため、受け入れ人数は今までの半分以下に減少します。
- 避難所での受付時に、検温と問診を行います。検温と問診の結果、発熱や咳などがある方や濃厚接触者の方は専用のスペースで過ごしていただきます。原則として、建物出入り口や通路も別とする予定です。



- 飛沫による感染を防ぐため、東大和市では、避難所にパーティションを用意しています。数に限りがあるため、避難者の数が多い場合には、全ての避難者に配布できないことがあります。あらかじめご了承ください。



コロナ禍における避難所での留意事項

- 避難された方は、マスク着用の徹底をお願いします。
- 避難所が過密になることを防ぐため、他の避難所をご案内する場合がありますので、その際にご協力をお願いいたします。
- 避難所で発熱や咳等の症状が出た場合には、すぐに運営スタッフに申告し、指示に従ってください。
- 避難所では、他の避難者との接触を避けてください。